

## 裾野麗峰山の会山行報告書

文・写真 GT

山行番 NO. 1811  
日時 2018. 12. 9 (日) 雪・微風  
山域 赤岳(2896m) 県界尾根～真教寺尾根  
コース サンメドウズ・スキー場林道終点発6:15—大門沢—県界尾根7:30—大天狗—最初の鎖場10:00—赤岳頂上山荘11:12—赤岳—真教寺尾根—昼食12:49—牛首山—林道終点15:33  
標高差 上り=林道終点約1660m～赤岳2899m=約1239m  
下り= "  
参加者 GT、KH=2名

冬山訓練で久しぶりに赤岳・県界尾根～真教寺尾根を選んだ。  
県界尾根は、2015年10月以来。  
天気は良い予報だったが、上部はガスっていた。林道終点から大門沢を詰める。  
標高1850m付近から尾根に向かう。前はまあまあの道だったが、今回は酷く荒れていた。  
荒れていたのではなく、完全に崩壊地となっていた。元々、沢コースだったが、3年の間に変わってしまった。これでは今後増々酷くなるだろう。



県界尾根下部

鉛色の空から白いものが舞ってきた。このところ暖かい日が続き山は少雪だった。  
しかし、やっぱり12月。季節は正直だった。  
大天狗を過ぎるとコースは、みるみる間に真っ白になった。しかも雪の下は凍っていて滑る。  
最初の鎖場下で、アイゼン・ヤッケを付けた。  
鎖場上は厳しいルートになるので、このタイミングは絶妙だった。



鎖場を上る。

新雪は軟雪で実に上り難い。新雪の山の難しさを改めて実感した。

最初の鎖場から、県界尾根は鎌首を持ち上げたように、急登が頂上まで延々と続く。

鎖が雪に埋まって掘り出す。雪が全く当てにならないのでアイゼンが滑る。

ガリガリ・ギシギシ、喘ぎながら上って行く。

上部は雪も舞っているが東面故、風が静かで有難い。冬山の風は最悪。好きな奴はいないだろう。



県界尾根上部

しかし、冬山の歴史は風の歴史でもある。50年の冬山は風に翻弄された。  
右手の頭上から人の声がした。一般ルートの登山者だった。  
赤岳頂上山荘が少し見えた。上り始めて既に時間は4時間半を回った。  
無雪期の県界尾根の上りは約4時間だが、やっぱり冬は何かと時間が掛かる。  
山荘に着いた。約5時間掛かった。少し休憩し、食べて温かいものを飲んだ。



赤岳頂上

ただ、昼食はまだ。食事は安全地帯で摂ることが肝心。食物を摂ると、どうしても緊張感が低下する。下りの真教寺尾根の下降は油断が出来ない。

頂上でアイゼンを履いていない若者がいた。新雪の下はガジガジの氷だからアイゼンを履かないのは考えられない。「アイゼンを履いた方がイイのでは??」と声を掛けたが返事は曖昧だった。恐らく、アイゼンを持っていなかったのではないか。上りはノー・アイゼンでも何とか上れる。ただ、下降は問題がある。11月の新雪時、富士山でもノー・アイゼンで上ったが下れない輩を見るが、それと同じである。



少しエビのシッポ

キレット分岐から、真教寺尾根に入る。雪が少ないだけに下降は神経を使う。  
兔に角、軟雪のアイゼンは歩き難い。僅かに足跡があった。

真教寺尾根は鎖場が延々と続く。厳しい壁が多い。県界尾根と真教寺尾根はどちらが難しいか、よく議論になるが、私は後者が難しいと思う。

県界は確かに急で長いが鎖場は少ない。こちらの良さは直接頂上に上れること。真教寺は、露出度が多くエグい。この時期は、鎖が凍り手袋が滑り要注意。こまめに手袋の氷を落として降りる。



厳しい下降

岩に雪が乗っていてアイゼンを掛けるフット・ホールドが分からなく苦勞する。  
鎖も雪に埋まるから、今後はますます困難になる。緊張の1時間で鎖場が終わった。

とたんに空腹を感じた。12時35分だった。2015年は、大体同じ場所で11時40分だったから、やっぱり1時間遅れ。水分不足で胃が重かった。水分を多くしてお茶漬けを強引に流し込む。

<http://susono-reihou.babyblue.jp/01-1-10.pdf> (2015年の記録)

雪は止み明るくなった。樹間に北岳が見えた。真っ白だった。牛首山を上り返し  
長い長い下りで15時33分林道着。約4時間掛かった。昼食時間・パーティーの力もあるが、下降は秋と同時間だった。

気温はまだ低く、相方の髪の毛はまだ凍っていた。ツララは、山形弁で「ボンダラゲー」という。  
やっぱり気温は低いのだ。  
若いアベックがいた。女性はミニスカートの生足で、いかにも寒そうだった。  
風邪が怖いので、温泉なしで帰る。



ボンダラゲー（山形弁）

この時期、ハッで最も困難なコースを歩いてイイ訓練だった。  
最も訓練のつもりだったが、殆ど、本番でした。(笑い)